

平成20年度第2回登録販売者試験問題 (平成21年2月15日 午前)

分野	出題数	試験時間
医薬品に共通する特性と基本的な知識(20問)	60問	120分
主な医薬品とその作用(40問)		

試験開始の指示があるまで、問題用紙を開けないでください。

【注意事項】

- 1 問題は、午前10時から12時までの120分間に解答してください。
- 2 問題は、問1から問60まであります。また、ページ数は1から38ページまであります。
- 3 問題は、4者択一と5者択一があります。
- 4 解答は、別に配布する解答用紙に記入してください。
- 5 解答は、マークシートですので、BまたはHBの黒鉛筆を使用し、解答用紙の例により、黒く塗りつぶしてください。
なお、修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消してください。
解答用紙は、折り曲げたり、メモやチェック等で汚したりしないようにしてください。
- 6 解答は、各設問ごとに一つ選び、その番号を黒く塗りつぶしてください。
- 7 解答用紙には、氏名、受験番号をそれぞれの欄に記入してください。
さらに、受験番号は4桁のマークシート欄も黒く塗りつぶしてください。
- 8 問題用紙は、各自、持ち帰ってください。
- 9 この試験の薬事法による記述は、薬事法の一部を改正する法律(平成18年法律第69号)による改正後の薬事法に基づいています。
- 10 この試験の医薬品成分の表記は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き(平成19年8月)」に基づいています。

滋 賀 県

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤や検査薬など、直接人体に使用されないような医薬品では、人の健康に影響を与えることはない。
- b 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- c 一般用医薬品には添付文書が添付されているため、効能効果や副作用等について購入者に誤解や認識不足が生じることはない。
- d 購入者が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するためには、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供が不可欠である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問2

医薬品の本質に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(c)内は、どちらも同じ字句が入る。

医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な(a)が保証されていなければならない。薬事法では、(b)の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めており、(c)による製品回収等の措置がなされることもあるので、(c)等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。

	a	b	c
1	有効性	重篤な副作用	製造販売業者
2	品質	重篤な副作用	製造業者
3	品質	健康被害	製造業者
4	品質	健康被害	製造販売業者
5	有効性	健康被害	製造業者

問3

第1欄の記述は、WHO（世界保健機関）の医薬品の副作用についての定義である。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の()反応」

第2欄

- 1 有害な 2 人の健康に影響を与える 3 好ましくない
4 主作用以外の 5 有害かつ意図しない

問4

医薬品によるアレルギーに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり、医薬品の薬理作用と関係がある。
- b アレルギーは、内服薬だけでなく、外用薬でも引き起こされることがある。
- c 一般用医薬品に使用されている添加物は、薬理作用がないので、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）とはならない。
- d 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになりやすくなり、思わぬアレルギーを生じることがある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問5

医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、定められた用量を超えて服用することにより、早く効果が得られる。
- b 一般用医薬品にも習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、そうした医薬品がしばしば乱用されることがある。
- c 一般用医薬品では、長期連用やアルコールとの併用等の不適切な使用が原因で、消化性潰瘍が起きる場合も多い。
- d 必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問6

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 かぜ薬、解熱鎮痛薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- 2 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。
- 3 複数の医薬品を併用した場合、または特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強することを相互作用といい、減弱することは相互作用とはいわない。
- 4 生薬成分が配合された医薬品と、生薬成分を含む食品と一緒に摂取すると、医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。

問7

小児の医薬品の使用に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の使用上の注意等において、小児という場合には、おおよその目安として(a)歳未満をいい、医薬品を受けつける(b)が(c)であるため、その使用に際して特に配慮が必要である。

	a	b	c
1	1 2	生理機能	未発達
2	1 2	受容体	敏感
3	1 5	生理機能	敏感
4	1 5	受容体	未発達
5	1 5	生理機能	未発達

問 8

小児等の医薬品の使用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において、幼児という場合には、おおよその目安として、1歳以上5歳未満を指す。
- b 成人用の医薬品を小児に与える場合は、大人の服用量を年齢に応じて適宜減らして服用させる。
- c 小児は、大人と比べて医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品では副作用を起こしやすい。
- d 乳児は、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 9

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、^{のど}喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まり、内服薬を使用する際に^{のど}喉に詰まらせやすい。
- b 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用により症状を悪化させることはない。
- c 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として60歳以上を指す。
- d 肝臓や腎臓の機能が低下している高齢者では、医薬品の作用が強く現れやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 10

妊婦、妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 妊婦が一般用医薬品を使用するときは、胎児への影響を考えなくてもよい。
- 2 母乳を与える女性（授乳婦）が医薬品を服用しても、医薬品の成分が乳汁中に移行することはない。
- 3 便秘薬のように、配分成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある医薬品がある。
- 4 ビタミン A 含有製剤は、胎児への影響はなく安全とされている。

問 1 1

医薬品の使用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 生活習慣病等の慢性疾患が、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える場合もある。
- b 登録販売者は、医療機関や薬局で交付された薬剤を使用している人については、一般用医薬品との併用の可否を判断し、説明しなければならない。
- c 過去に医療機関で治療を受けていたが治癒したという購入者に対しては、一般的な情報提供を行えば、いつ頃どのような疾患にかかっていたかは、特に注意する必要はない。
- d 一般用医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるものがある。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 2

プラセボ効果に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品を使用したとき、必然的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- 2 プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待などが関与して生じると考えられており、時間経過による自然発生的な変化は関与しない。
- 3 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの(効果)のみで、不都合な反応や変化は含まない。
- 4 プラセボ効果は不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

問 1 3

医薬品の品質に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならないが、配合されている成分には、(a)や(b)、光((c))等によって品質の劣化を起しやすきものも多く、適切な保管・陳列がなされなければ、医薬品の効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。

	a	b	c
1	高温	乾燥	紫外線
2	低温	乾燥	赤外線
3	高温	多湿	紫外線
4	低温	多湿	赤外線
5	低温	多湿	紫外線

問 1 4

医薬品の品質に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- 2 一般用医薬品では、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等を行うことが重要である。
- 3 表示されている「使用期限」とは、一旦開封後保管された場合でも、その品質が保持される期限である。
- 4 医薬品は、たとえ一部でも変質した物質から成っていることが判明した場合は、販売等してはならない。

問 1 5

一般用医薬品の役割に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 健康状態の自己検査
- 2 衛生害虫の防除や殺菌消毒
- 3 重篤な疾病に伴う症状の改善
- 4 生活の質（QOL）の改善・向上
- 5 健康の維持・増進

問 1 6

医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者本人がその医薬品を使用するとは限らないため、誰が使用するのかわ確認すべきである。
- b 購入者側があらかじめ購入する医薬品を決めている場合、宣伝広告や販売価格等に基づいて選択していることもあるので、購入の動機等を確認する必要がある。
- c 一般用医薬品は家庭における常備薬として購入されることも多いので、その医薬品がすぐ使用される状況にあるのか把握する必要はない。
- d 購入者とのコミュニケーションが成立しがたい場合であっても、購入者側から医薬品の使用状況に関する情報をできる限り引き出し、可能な情報提供を行っていくためのコミュニケーション技術を身につけるべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 17

スモン訴訟に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)として販売されていた(b)製剤を使用したことにより、(c)に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	催眠鎮静剤	クロロホルム	亜急性脊髄視神経症 ^{せきずい}
2	催眠鎮静剤	キノホルム	血友病
3	整腸剤	クロロホルム	血友病
4	催眠鎮静剤	クロロホルム	血友病
5	整腸剤	キノホルム	亜急性脊髄視神経症 ^{せきずい}

問 18

サリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイドには血管新生を妨げる作用があり、胎児の成長過程で細胞分裂が正常に行われず、四肢欠損などの先天異常が発生した。
- b サリドマイドは下剤としても用いられており、妊婦が服用したことにより被害が拡大した。
- c サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用は *R* 体のみが有するので、*R* 体のサリドマイドを分離して製剤化すれば催奇形性は避けられた。
- d サリドマイドによる薬害事件は、世界的にも問題となったため、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 19

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a CJDの原因とされるプリオンは、細菌の一種である。
- b プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- c プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないままウシ乾燥硬膜として流通し、脳外科手術で移植された患者に発生した。
- d 生物由来の医薬品等によるCJD等の感染被害が多発したため、生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

1（a、c） 2（a、d） 3（b、c） 4（b、d）

問 2 0

H I V 訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血友病患者が、ヒト免疫グロブリンの投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する訴訟である。
- b 本訴訟の和解を踏まえ、国は、H I V 感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センターおよび拠点病院の整備等の様々な取組みを推進してきている。
- c 本訴訟の和解を踏まえ、医薬品の副作用等による健康被害の再発防止に向けた取組みも進められ、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて感染症報告が義務づけられることになった。
- d 本訴訟を契機として、現在では血液製剤の安全確保対策として、検査や献血時の問診の充実が図られている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 2 1

かぜに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜは主にウイルスが鼻や喉^{のど}などに感染して起こる様々な症状の総称である。
- b ウイルス性胃腸炎は、俗に「お腹にくるかぜ」などと呼ばれ、ウイルスが消化器に感染したことによるものである。
- c かぜ薬とは、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称であり、総合感冒薬とも呼ばれる。
- d かぜの症状は、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば自然に治る。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 2

かぜ薬に用いられる成分とその目的とする作用の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

[成分]

[目的とする作用]

- 1 塩化リゾチーム・・・・・・・・・・発熱を鎮め、痛みを和らげる
- 2 メキタジン・・・・・・・・・・くしゃみや鼻汁を抑える
- 3 マレイン酸クロルフェニラミン・・・痰の切れを良くする
- 4 イブプロフェン・・・・・・・・・・咳を抑える

問 2 3

次の症状に用いられる漢方処方製剤として、最も適当なものはどれか。

かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合に適すとされるが、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感、発汗過多、全身脱力感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|------------------------------|---|------------------------------|
| 1 | 釣藤散
<small>ちようとうさん</small> | 2 | 抑肝散
<small>よくかんさん</small> | 3 | 桔梗湯
<small>ききようとう</small> |
| 4 | 芍薬甘草湯
<small>しゃくやくかんぞうとう</small> | 5 | 麻黄湯
<small>まおうとう</small> | | |

問 2 4

次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

この薬の成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

6錠中	
アセトアミノフェン	9 0 0 m g
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3 . 5 m g
臭化水素酸デキストロメトルファン	4 8 m g
dl-塩酸メチルエフェドリン	6 0 m g
無水カフェイン	7 5 m g
ヘスペリジン	6 0 m g
トラネキサム酸	4 2 0 m g

- a アセトアミノフェンは、体内でのプロスタグランジンの産生を抑える成分である。
- b 臭化水素酸デキストロメトルファンは、咳を抑える成分である。
- c ヘスペリジンは、胃酸を中和する成分である。
- d トラネキサム酸は、炎症の発生を抑え、腫れを和らげる成分である。

- 1 (a 、 b) 2 (a 、 c) 3 (b 、 d) 4 (c 、 d)

問 2 5

解熱鎮痛薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イソプロピルアンチピリンはピリン系と呼ばれる解熱鎮痛成分である。
- b イブプロフェンは、ライ症候群の発生との関連性が示唆されている。
- c アスピリンは、血液を凝固しやすくする作用がある。
- d エテンザミドは、他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの伝わりを抑える働きが優位とされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 2 6

眠気を促す薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(a)内は、どちらも同じ字句が入る。

生体内の刺激伝達物質である(a)は、脳の下部にある睡眠・覚醒に大きく関与する部位において、神経細胞を刺激して覚醒の維持・調節を行う働きを担っている。脳内における(a)による刺激の発生が抑えられると眠気が促される。(b)は、特にそうした(c)作用が強いとされている。

	a	b	c
1	プロスタグランジン	ブロムワレリル尿素	中枢
2	プロスタグランジン	塩酸ジフェンヒドラミン	末梢
3	プロスタグランジン	ブロムワレリル尿素	末梢
4	ヒスタミン	塩酸ジフェンヒドラミン	末梢
5	ヒスタミン	塩酸ジフェンヒドラミン	中枢

問 27

カフェインに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を弛緩させる働きがあり、尿量の増加をもたらす。
- 2 胃液の分泌を亢進する作用があり、副作用として胃腸障害が現れることがある。
- 3 作用が弱いものの、反復して摂取すると習慣になりやすい性質がある。
- 4 心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸が現れることがある。

問 28

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a テオクル酸プロメタジンを含む製品は、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- b 臭化水素酸スコポラミンは、肝臓で代謝されにくいため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。
- c アミノ安息香酸エチルは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる作用を示す。
- d 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 2 9

リン酸コデインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 延髄^{ずい}の咳嗽^{がいそう}中枢に作用し、咳を抑える。
- b 作用本体であるコデインは、モルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性があり、麻薬性鎮咳^{がい}成分とも呼ばれる。
- c 胃腸の運動を亢進させる作用を示し、副作用として下痢が現れることがある。
- d 妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が、胎盤関門を通過して胎児へ移行する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問 3 0

鎮咳^{がい}去痰^{たん}薬として用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 麦門冬湯^{ばくもんどうとう}は、痰^{たん}の切れにくい咳、気管支炎、気管支喘息の症状に適している。
- b 半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}は、気分がふさいで、咽喉^{いんこう}・食道部につかえ感があり、ときに動悸^き、めまい、嘔気^{おう}などを伴う人における、咳^{せき}、しわがれ声、不安神経症、神経性胃炎に適している。
- c 五虎湯^{ごことう}、麻杏甘石湯^{まきょうかんせきとう}はいずれも構成生薬としてダイオウを含む。
- d 漢方処方製剤の鎮咳^{がい}去痰^{たん}薬は、作用が穏やかであるため、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用は起こらない。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問3 1

次の口腔咽喉薬^{くわいんこう}の成分のうち、殺菌消毒作用を目的として配合されているものはどれか。

- 1 グリチルリチン酸二カリウム
- 2 アズレンスルホン酸ナトリウム
- 3 ポピドンヨード
- 4 グリセリン

問3 2

次の胃腸に作用する生薬成分のうち、香りによる健胃作用を期待して用いられるものはどれか。

- 1 オウバク
- 2 ゲンチアナ
- 3 オウレン
- 4 ショウキョウ

問3 3

胃の薬に用いられる成分とその目的とする作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | [成分] | [目的とする作用] |
|--------------------|------------|
| a ロートエキス | 消化作用 |
| b プロザイム | 胃液分泌抑制作用 |
| c メタケイ酸アルミン酸マグネシウム | 制酸作用 |
| d スクラルファート | 胃粘膜保護・修復作用 |

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問34

胃腸薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ピレンゼピンは、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示す。
- b アルジオキサはアルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- c 塩酸ロペラミドは、食あたりや水あたりによる下痢に適用される。
- d タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれる蛋白質から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問35

瀉下薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マルツエキスは、主成分であるブドウ糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促す。
- b センノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解された生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらす。
- c ビサコジルは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらす。
- d 硫酸マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、大腸を刺激して排便を促す。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問36

胃腸鎮痛鎮痙薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗コリン成分は、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げる。
- b 抗コリン成分が副交感神経系の働きを抑える作用は消化管に限定される。
- c 塩酸パパベリンは、抗コリン成分と同様、胃液分泌を抑える作用がある。
- d 局所麻酔成分のアミノ安息香酸エチルは安全性が高く、6歳未満の小児にも使用できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問37

浣腸薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 便秘の場合に排便を促すことを目的として直腸内に適用されるもので、剤型は注入剤のみである。
- b 薬液を注入した後すぐに排便を試みることを望ましい。
- c 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用がある。
- d グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問38

駆虫薬に関する次の記述について、正しいものはどれか。

- 1 複数の駆虫薬を併用すると効果的である。
- 2 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため瀉下薬が併用されることがあるが、ヒマシ油との併用は避ける必要がある。
- 3 再度駆虫を必要とする場合は、2週間以内に使用することとされている。
- 4 パモ酸ピルビニウムは回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

問39

強心薬に用いられるセンソに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用がある。
- b ヒキガエル科のシナヒキガエルまたはヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたものである。
- c センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用する。
- d 有効域（治療濃度域）が比較的広い成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問40

高コレステロール改善薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、細胞内コレステロール異常の改善、細胞内コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として使用される医薬品である。
- b 高コレステロール改善薬は、末梢組織へのコレステロールの吸収を抑えたり、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す成分を主体として配合される。
- c ビタミンB₂は、過酸化脂質と結合し、その代謝を促す作用を有する。
- d パンテチンは、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがある。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問4 1

痔の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外用痔疾用薬は循環血流中に入るおそれがないことから、全身的な影響を生じることはない。
- b 塩酸ナファゾリンは、血管拡張作用による止血効果を期待して配合されている。
- c 大便が硬くて便秘傾向がある人における、痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘の症状には乙字湯が適する。
- d 痔が悪化しても、肛門部にはもともと多くの細菌が存在しているため、細菌感染を起こすことはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問4 2

婦人薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 加味逍遙散は、胃腸の弱い人では悪心、嘔吐等の副作用が現れやすく不向きとされる。
- 2 当帰芍薬散は、比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすい人における月経不順、月経異常等に適する。
- 3 桃核承気湯はマオウを含むため、授乳婦における使用に関して留意する必要がある。
- 4 内服で用いられる婦人用薬は、比較的作用が穏やかで、ある程度長期間使用することによって効果が得られるとされる。

問 4 3

次の医薬品等の成分と、その目的とする作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

[成分]	[目的とする作用]
a フマル酸クレマスチン	抗ヒスタミン作用
b ペルメトリン	抗炎症作用
c 塩酸ピリドキシソ	アドレナリン作動作用
d ベラドンナ総アルカロイド	抗コリン作用

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問 4 4

アレルギー症状に用いられる医薬品に関する説明を行う場合の記述について、誤っているものはどれか。

- 1 アレルギー症状が現れる前から予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することは適当でない。
- 2 蕁麻疹や鼻炎等のアレルギー症状に対して、一般用医薬品のアレルギー用薬を長期的な症状の緩和に用いてもよい。
- 3 皮膚感染症により湿疹やかぶれ等に似た症状が現れた場合、アレルギー用薬によって一時的に痒み等の緩和を図ることは適当でない。
- 4 アレルギー用薬の内服薬と鼻炎用点鼻薬の併用は、同種の作用を有する成分が重複することもあり、併用する場合は注意が必要である。

問 4 5

鼻に用いる薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用点鼻薬に配合される鼻粘膜の充血を和らげる成分は主としてコリン作動成分である。
- b 点鼻薬のアドレナリン作動成分には、塩酸ナファゾリン、塩酸フェニレフリン、塩酸ピレンゼピン等がある。
- c 点鼻薬の容器をしっかりと鼻に押しつけて使用するのとは適当ではない。
- d アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 4 6

鼻に用いるアレルギー用薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。
- b 塩化ベンゼトニウムは、黄色ブドウ球菌には殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスには効果がない。
- c マレイン酸クロルフェニラミンは、ヒスタミンの働きを抑えることにより、くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する。
- d 局所麻酔成分として、リドカインやグリチルリチン酸二カリウムが配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問 4 7

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コンタクトレンズ装着液は、配合成分として予め定められた範囲内の成分のみを含む等の基準に当てはまる製品は、医薬部外品として認められている。
- b 人工涙液は、結膜炎やものもらいに用いられるほか、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- c 点眼薬を使用する際、容器の先端がまぶたやまつげに触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因になる。
- d 点眼剤 1 滴の薬液の量は約 $50 \mu\text{L}$ であるのに対し、結膜囊^{のう}の容積は $30 \mu\text{L}$ 程度とされており、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 4 8

アドレナリン作動成分が配合された眼科用薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

眼科用薬に用いられるアドレナリン作動成分は、結膜を通っている血管を(a)させて目の充血を除去することを目的として、(b)等が用いられる。また、緑内障と診断された人では、眼圧の(c)をまねき、症状を悪化させるおそれがあるため、使用前にその適否につき、医師または薬剤師に相談がなされることが望ましい。

	a	b	c
1	収縮	アズレンスルホン酸ナトリウム	上昇
2	収縮	塩酸エフェドリン	上昇
3	収縮	アズレンスルホン酸ナトリウム	下降
4	拡張	アズレンスルホン酸ナトリウム	下降
5	拡張	塩酸エフェドリン	上昇

問 4 9

眼科用薬に配合されるビタミン類の配合目的に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミン A は、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
- b ビタミン B₂ は明暗順応に補酵素として働くとともに、新陳代謝を改善する効果を期待して用いられる。
- c ビタミン B₆ はアミノ酸の代謝や神経伝達物質の分解に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
- d ビタミン B₁₂ は、自律神経系の伝達物質の産生に重要なビタミン成分であり、目の調節機能の回復を促す効果を期待して用いられる。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問50

きず口等に用いる殺菌消毒成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、黄色の色素で、真菌や結核菌に対して殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対しては効果がない。
- b オキシドールの殺菌作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化作用等によるものであり、作用の持続性は乏しく、また、組織への浸透性も低い。
- c ヨウ素系殺菌消毒成分は、ヨウ素の酸化作用により一般細菌類やウイルスに対して殺菌消毒作用を示すものであり、殺菌力は、酸性になると低下する。
- d マーキュロクロムは一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、有機水銀の一種であり、口の周りや口が触れる部位への使用は避ける必要がある。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問5 1

非ステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ウフェナマートは炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示す。
- b インドメタシンはプロスタグランジンの産生を促進し、筋肉痛などに用いられるが、過度に使用しても鎮痛効果が増すことはない。
- c サリチル酸メチルは、主として局所刺激により患部の血行を促し、また、末梢の知覚神経に軽い麻痺^ひを起こすことにより、鎮痛作用をもたらす。
- d ケトプロフェンは、紫外線により、使用中または使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問5 2

肌の角質化および角質軟化成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a いぼは、角質層の一部が単純に肥厚したもので^{しん}芯がなく、通常、痛みは伴わない。
- b うおのめは、角質層が部分的に厚くなったもので、角質の芯が真皮にくい込んでいるため、圧迫されると痛みを感じる。
- c イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- d サリチル酸は、角質成分を溶解することにより、角質軟化作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	正

問5 3

抗真菌作用を有する医薬品に関する次の記述について、誤っているものはどれか。

- 1 じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏またはクリームが適する。
- 2 ウンデシレン酸は、患部をアルカリ性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- 3 塩酸ブテナフィン^①は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- 4 硝酸ミコナゾール^②は、イミダゾール系の抗真菌薬と呼ばれ、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。

問54

毛髪用薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(c)内は、どちらも同じ字句が入る。

毛髪用薬のうち、配合成分やその分量等にかんがみて人体に対する作用が緩和なものについては、(a)(育毛剤、養毛剤)として製造販売されている。

脱毛は(b)ホルモンの働きが過剰であることも一因とされているため、(c)ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して、(c)ホルモン成分の一種である安息香酸エストラジオールが配合されている場合がある。

塩化カルプロニウムは、(d)作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	医薬部外品	男性	女性	コリン
2	医薬部外品	女性	男性	抗コリン
3	医薬部外品	男性	女性	抗コリン
4	化粧品	女性	男性	コリン
5	化粧品	男性	女性	抗コリン

問55

歯や口中に用いる薬の成分と、その目的とする作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

[成分] [目的とする作用]

- a クレオソート・・・局所麻酔作用
- b ヒノキチオール・・・抗炎症作用
- c オイゲノール・・・殺菌消毒作用
- d カルバゾクロム・・・組織修復作用

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問56

ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤に関する次の記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ゆっくりと断続的に^か噛む。
- 2 口腔内を酸性にする食品を摂取した場合は、しばらく使用を避ける。
- 3 重い心臓病等の基礎疾患がある人では、使用を避ける。
- 4 使用期間は6ヶ月を目途とし、12ヶ月を超える使用は避ける。

問57

滋養強壮保健薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収および尿細管でのカルシウム再吸収を促す。
- b ビタミンB₆の摂取により、尿が黄色になることがある。
- c システインは、アミノ酸の一種で、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す働きがある。
- d ヘスペリジンはビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問58

次の症状に用いられる漢方処方製剤はどれか。

腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちな人における、高血圧の随伴症状（動悸、肩こり、のぼせ）、肥満症、むくみ、便秘の症状に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人、発汗傾向の著しい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- | | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|-------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1 | <small>おうれんげどくとう</small>
黄連解毒湯 | 2 | <small>だいさいことう</small>
大柴胡湯 | 3 | <small>せいじょうぼうふうとう</small>
清上防風湯 |
| 4 | <small>ぼういおうぎとう</small>
防己黄耆湯 | 5 | <small>ぼうふうつうしやうさん</small>
防風通聖散 | | |

問59

殺虫剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カーバイト系殺虫成分は、コリンエステラーゼの阻害によって殺虫作用を示すが、有機リン系殺虫成分と異なり、コリンエステラーゼとの結合は不可逆的である。
- b 有機塩素系殺虫成分は、我が国ではかつて広く使用され、感染症の撲滅に大きな効果を上げたが、残留性や体内蓄積性の問題から、現在ではすべてその使用が禁じられている。
- c 有機リン系殺虫成分は、高濃度または多量に曝露^{ばく}した場合には、神経の異常な興奮が起こり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺^ひ等の症状が現れるおそれがある。
- d ピレスロイド系殺虫成分は、除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解するので残効性が低い。このうちフェノトリンは、殺虫成分で唯一、人体に直接適用されるものである（シラミの駆除を目的とする製剤の場合）。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問60

妊娠検査薬に関する次の記述について、正しいものはどれか。

- 1 妊娠検査に用いる尿検体としては、尿中hCGが検出されやすい就寝前の尿が適している。
- 2 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の概ね一週間前の検査が推奨されている。
- 3 尿中hCGの検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けることがあるので、冷蔵または冷凍保管が適している。
- 4 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても尿中hCGが検出されることがある。